

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能書写ひまわりホーム
所在地	(〒 671 - 2201) 姫路市書写 634-50		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

令和4年度の事業所の目標の一つとして「平均介護度を上げる」を掲げていました。医療ニーズの高い利用者様のお手伝いをするのが社会貢献であるという考えからであります。実際、介護度の上昇に伴い、急変時の対応や事故防止の観点から力不足を感じる場面が多くあり、新年度への課題として具体的な対策を立てることに取り組みたいと思います。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 3 月 17 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 3 月 15 日	出席人数 (合計)	(5) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (___ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (___ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (___ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (___ 人) <input type="checkbox"/> その他 (1 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	利用者情報を職員間で漏れなく共有することを目標とし、継続的に取り組む。	月に1度の事業所の会議時には施設長にも出席していただき、職員の取り組みについて報告を行い、修正点等のアドバイスをいただいた。	意識の高まりを実感するものの、実行力に欠ける感は否めない。言葉や掛け声だけでなく、行動に移すための方法を考える必要がある。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	会議において担当者を指名し、責任を持って進行する。特に医療面の知識向上を図れるよう、看護師からの意見発表に耳を傾ける。	研修を継続的に実施した。医療面では感染症対策に時間を多く割いた。	新型コロナの長引く影響もあり、感染症の拡散防止分野への意識の高まりを感じることが出来た。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	利用者を確保するため、病院、地域包括支援センターを中心にネットワークを構築する。	他事業所への訪問を継続して実施した。自事業所の特徴について丁寧に説明を行った。	交流の輪を広げることで看護小規模多機能の役割、持っている能力の発信に繋がったと感じる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	法人の新設事業所の紹介活動と共に地域へのアピールや貢献できる分野について周知頂ける取り組みを行う。	コロナ禍の影響で行事等への参加は限定的なものとなった。不足を補うためにオンラインシステムを積極的に活用した。	ウィズコロナを見据え、今後も地域に対して事業所の現状や取り組み内容について詳細に発信する。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	まだ認知度の低い看護小規模多機能の特徴を広く知っていただくことを目的に様々なツールを使って世間一般にアピールする。	2か月に1度のペースで刊行している「ひまわり日記」を中心に目に見えるもので宣伝、営業活動を行う。	「看護小規模多機能」といった言葉が耳に馴染むまで、告知活動は継続する。ツールを有効に使用し、訴求力を高める。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画

I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		医療関連の必要知識についてはまだまだ不十分である。コロナの影響で、感染症対策については詳しくなった経緯があるため他の疾患についても参考とする。	看護師を講師とした学びの時間を多く確保する。24時間のシフト制のため、全員参加は実現しにくいですが、会議時には毎回、研修を実施する。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	事例の検討が有効であったと感じている。まだ職員個別に判断、対応しているケースが散見されるため、より多くの目で確認して対応を実践する習慣を身につける。	体調の急変時の対応に問題がある場面があったと思われる。介護職員にとっては負担の大きな部分である為、主だったケースについてマニュアルを作成し運用することが有効である。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	病院、主治医との連携については以前に比べてスピード感が増している。今後も確実な連絡体制を継続する。	確実な連絡手段である FAX を主たる連絡ツールとして使用する。送信が確実に実施出来ているかの確認までしっかりと行うことが求められる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	医療ニーズの高い利用者様を積極的に受け入れることで、社会的な使命を果たす。	ウィズ・アフターコロナの時期を迎え、これまで不足していた対外的な取り組みに挑戦する。地域活動への参加を積極的に行う。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		「様々な項目についてコロナの影響があった」と言い訳に終始してはいないか、再度自事業所、職員の行動全般に検証し、改善する姿勢が必要である。	新たに受託する地域包括支援センターを有効に活用し、連携して看護小規模多機能の認知度を上げる。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ できて い る	あまりで きてい ない	全く できて い ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		8	5		施設長の考え方、指導方針が明確でわかりやすい。その為、職員一人ひとりへの伝達がしっかりと行えている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		8	5		新しく看護小規模多機能事業所の職員となった者に対して、如何に理念を浸透することが出来るのかが問われるのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	2	9	2		成果を感じる事が出来る部分については継続することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		量の向上に繋がった。					✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	2	9	2		「これでいい」と思うことなく、限りなく向上心を落ち続けて欲しい。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 各種の委員会での研修会の実施をはじめ、研修内容は充実している。オンライン研修への参加も増えている。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	3	9	1		情報の共有は確実に行って欲しい。「不十分であった」等の言葉を謝罪時の言い訳にしてもらいたくない。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 会議や朝礼、定時の申し送りで情報の伝達を行っている。より精度の高い伝達について検討している。					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	1	5	7		毎回の招集を楽しみにしている。会議のたびに新しい情報を得られることに感謝している。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2カ月に1度のペースで会議を実施しているが、コロナ感染拡大の影響も減り、					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		中止することが減少した。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	5	8			事業所に来所した際には明るく快活な職員の雰囲気を感じられ、気持ちが良い。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	4	8	1		情報管理は徹底して欲しい。外部に漏洩するニュースを聞く度に、個人情報管理の大切さを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者	4	8	1			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている					失敗から得た教訓をしっかりと職員全員が共有できる体制にすることが大事である。	策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	3	9	1		昨今の異常気象の様子を踏まえ、災害訓練には真摯に取り組んで欲しい。利用者の命を守る砦として期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます。
II サービス提供等の評価 1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	4	8	1		看護に手厚い事業所として周囲からの期待は大きい。夜間対応等、負担は多いが頑張っている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護におい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		援が提供できる情報分析に努める必要がある。					ては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります。
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	4	8	1		介護職、看護職双方が互いの業務内容を認知し、リスペクトし合える状況が望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	4	8	1		介護に関しては素人である家族を支援し、安心感を持って利用することができる事業所を目指して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成され	4	8	1		専門的な分野についてはわからないが、その人に合った計画を作成して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	ている						する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	2	9	2		専門性の高い分野であり素人が理解しにくい場面が多く見られると想像できる。書面での説明が適切ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 予後についての説明は極力主治医に任せようようにしている。看護師が間に入る際には、誤解が生じないように留意している。医療ニーズの低い利用者への対応は今後課題が多い。</p>							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	2	9	2		ケアマネの能力向上に努め、効率の良い業務遂行力を身につけることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
<p>〔具体的な状況・取組内容〕 状況の変化の把握から計画への反映に時間が掛かってしまう。</p>							
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切	2	8	3		ご家族様には「在宅」が基本であることを何度も説明し、	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	[具体的な状況・取組内容] レスパイトの意味での利用時間の延長が常態化している。事業所としても悩んでいる項目である。家族との信頼関係作りが必要であると考えている。				理解を得る努力を続けて欲しい。	な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	4	7	2		利用者の変化に素早く気づき、適切に医療従事者に伝達するスキルを磨いて欲しい。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] 主治医との連携については主にケアマネ、看護職が担当し、無駄のないやり取りが出来る体制をつくる努力をしている。メール、FAXを有効に活用しながら確実な連絡を心掛けている。							
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	4	7	2		互いの専門性を理解して、共同作業が円滑に進むよう取り組みを進めて欲しい。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に
[具体的な状況・取組内容] 同じフロアで業務に当たっており、意思疎通は十分に行えている。それぞれの役割を自覚し、負担が偏ることのない業務分担を目指している。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	5	7	1		介護で重要とされるチームケアの精神を大切にしながら、利用者の対応を行って欲しい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 業務量の多さから連携が不十分なケースが散見される。効率的な業務の遂行を目指す必要がある。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	5	7	1		「看護師の配置が厚い」という特性を生かした事業運営を継続して欲しい。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		[具体的な状況・取組内容] 看護師用の申し送りノートを活用し、分かりやすい情報共有に努めている。風通しの良い雰囲気を作ることで、素早く伝達できる風土を作っている。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく	4	7	2		利用者一人ひとりにじっくり向き合った対応を期待し	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	説明し、利用者等の理解を得ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ほとんどの利用者が認知症を抱えており理解を得ることに苦心している。				ている。	
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	8	2		家族様からの質問については極力、具体的に回答することが望ましい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 上記と同じ					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	7	4		新しい情報を常に取り入れる姿勢をこれからも続けて欲しい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 必要と思われる場合には看護師から直接説明することで理解を深める努力をしている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	4	7	2		看護小規模であることの強みを発揮し、きめ細やかな対応で利用者及び家族の満足度を上げて欲しい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の主訴には絶えず耳を傾ける姿勢を徹底している。家族と本人の要望のズレが発生した場合の調整役としての役割に力を発揮出来るよう努めたい。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	4	7	2		可能な限り迅速に対応してもらうことを期待している。状態の変化については早期に気づき、予後対応の説明をお願いしたい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 自宅の状況を的確に把握することで、在宅生活の継続の判断ができるため、多くの職員が目を確認するようにしている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	7	2		終末期は家族の精神的なケアも必要とされる。本人、家族にしっかり寄り添う姿勢を期待している。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医、看護師を中心に対応している。経過について正確に記録に残し、振り返りが出来る体制にしている。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	4	7	2		忙しいとは思いますが、カンファレンス等には可能な限り参加し、情報交換をして欲しい。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院の地域連携室との連携に注力している。サマリーを遅滞なく送付することで、退院時のカンファレンスの参加に繋げて					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		いる。					共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	3	7	3		看護師においては不安感がないが、不在時の対応はどうするのか、検討しておくことが必要と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		緊急時対応に必要な書類はファイリングにまとめており、緊急時に焦る事例はない。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	2	8	3		急変時はミスが多く発生することが考えられるため、事前の備えが大切であると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 協力病院は確保している。有事に際しては都度、主治医や病院と対応を協議しながら行っている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考え	2	8	3			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	られる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議には地域包括支援センターのケアマネにも参加いただき、地域との繋がりを継続して保つことが出来るよう配慮している。				新しく地域包括支援センター業務を受託することでのメリットを生かして欲しい。	一マルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることが出来るような方法での情報発信が、迅速に行われている	1	9	3		会議の内容を全職員が共有していなければ意味が無い。内容を把握できる体制を作ることが肝要であると言える。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 過去の議事録はファイリングしており閲覧可能な状態にしている。しかし、職員が手にしている場面は見たことが無く今後の課題と言える。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	1	9	3		コロナも徐々に終息傾向にあり、今後は地域に向けて積極的に出向いて欲しい。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。
		[具体的な状況・取組内容] 主に「ひまわり日記」という媒体を使用して、施設の取り組み内容については発					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		信している。コロナが落ち着いた時点で他の取り組みも進めたい。					✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している					今後、実施する予定等があるか検討しておくべき。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	3	8	2		<p>常時、吸引を必要とする利用者を受け入れる事業所として体制が整えられることを望む。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 24 時間体制までの対応とはなっていない。現状、吸引を必要とする利用者を受</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
		け入れており、今後も継続する。					できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>1</u>	<u>8</u>	<u>3</u>		いろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 今のところ、受け入れた実績がなく、体制は整っていない。要請があれば、前向きに対応したい。</p>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>4</u>	<u>7</u>	<u>2</u>		いろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看取りについては経験値が上がっている。施設利用中に看取り状態になる場合が多く新規の方でも積極的に受け入れたい。</p>					
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲	2	8	3		地域包括支援センター業務の受託により、身近に学ぶ環	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 令和5年度より法人として地域包括支援センター業務を受託することが決まり、その特徴等を積極的に学びたい。				境が整ったと思われる。是非、そのメリットを生かして欲しい。	✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」	
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開								
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	4	8	1		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 今のところ、医療ニーズの高い利用者の優先順位を考慮しており、特定の利用者に偏ることはない。	特定の集合住宅等に限定する意味についてはわからないが、利用者の困窮具合が基準となっている現状は適切であろうと思われる。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等								
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	3	6	4		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 開かれた事業所として地域に認知してもらえるよう、課題提起や改善策の提案について積極的に発信するつもりである。	地域にも気づきとしてとらえることが出来、互いに成長するための関係性を望んでいる。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							<p>要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	4	8	1		<p>家族への過度な負担は家庭崩壊にもつながるリスクをはらんでいる。専門的知識を駆使して、負担軽減に力を貸して欲しい。</p>	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
							<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>「具体的な介助技術の方法を教えて欲しい」という要望は多くの家族から寄せられる。都度、状態に応じて伝えるように心がけている。その際、しっかりと根拠を示しながら説明することで、より納得が得られやすいと感じる。</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	早期にすべての利用者に達成されるよう頑張ってもらいたい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	介護に加えて医療面のサポートが受けられることは心強い限りである。看護小規模多機能に対する期待は大きい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ	これまでの実績が少ないとのことであるが、他の	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービス

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	<p>利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<p>れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない</p> <hr/> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> 4. 利用者の1/3には満たない</p>	<p>様々な項目も踏まえ、大いに期待している。</p>	<p>の提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」